

令和5年第4回茨木市こども育成支援会議 事前質問・ご意見等への回答

資料名	ページ数	ご意見・ご質問	回答	担当課	質問者
【資料3-1】子ども・子育て支援法に基づく基本方針	61-62	<p>児童虐待への対応について、いわゆる民間による子育て支援ネットワーク等を活用していくとの考えはあるのか。活用するとすると、守秘義務と情報共有が大きな壁になるかと思われるが、どう対応されていくのか。同様に児童養護施設が茨木市と地域の子育て支援にあたる場合にも、その点をどうお考えなのか。さらに、茨木市としては児童養護施設に対し、どのような働きを期待されていますか。</p>	<p>児童虐待につきましては、引き続き、守秘義務がかかる要保護児童対策地域協議会を中心とした対応を考えております。 子育て支援にあたっては、地域のネットワークや関係団体等と連携した支援は重要であると考えておりますが、支援対象者の同意を得て、連携・支援していくことが望ましいと考えております。 また、虐待予防の観点から引き続き、子育て短期支援事業の利用希望者の受入れと一時保護、入所児童、退所後児童への支援をお願いしたいと考えております。</p>	子育て支援課	畑瀬委員
資料8 茨木市次世代育成支援行動計画(第5期)統計データ・資料(案)について	21	<p>4か月検診について・・・97.7%と受診率が高いのは保護者として、心配や不安があるので安心が欲しいので、受診率が高いと思います。一年前に4か月検診を終えたお母さまが来られて、4か月検診で小児科の先生から「頭の形が最悪です。ヘルメット治療が必要」と勧められたそうです。深刻な顔で相談をされました。ひろばでは助産師さんが来られていますので、助産師さんにも相談をされました。助産師さん「ずりバイとはいはいをしっかりすることで、全身の筋肉が付くと頭の形も良くなるので、ヘルメット治療はする必要が無いとの返事をされてました。そのお子様は治療することなく今1歳を過ぎていますが、綺麗な頭の形をしています。病気でもないのにヘルメット治療を検診で進められることに疑問を抱きます。</p>	<p>健診の場においては、お子さまの成長・発達を確認するとともに、その保護者が抱かれる心配事やご不安に寄り添うことが何より重要です。 ご指摘につきましては、真摯に受けとめ、今後の健診事業の実施に活かしてまいります。</p>	子育て支援課	深見委員
資料8 茨木市次世代育成支援行動計画(第5期)統計データ・資料(案)について	23	<p>健康教室の実施状況の推移の離乳食講習会と幼児食講習会の回数で何人の方が参加されているか知りたいです。特につかみ食べについての講座の強化をお願いをしたいです。最近ウズラの卵を食べての不幸な事故がありました。さんさんひろばでは年3回の歯科講座の中でつかみ食べの指導をされています。一口代の小さなおにぎりではなく、コンビニで売っているサイズのおにぎりをつかみ食べさせて欲しい、親の見守りの中で大きな食べ物を自分の口に入る大きさに噛み千切って食べること、よく噛んで食べることが、食事中での事故を起こさないことに繋がるとお話をされます。コンビニサイズのおにぎりについては、お母さまは知らない方がほとんどです。しっかりとつかみ食べの大切さを教えることが、不幸な事故から子どもたちも守ることになると思いますので、つかみ食べを多くのお母さま方に参加してもらえるような取り組みをお願いします。</p>	<p>今年度の離乳食・幼児食講習会では、1回当たり10～14名ほどの方にご参加いただいているところです。また、「手づかみ食べ」につきましては、摂食機能の発達にとって重要であると捉えております。 引き続き当該講習会やその他栄養相談などの機会を通じた情報発信等に努めてまいります。</p>	子育て支援課	深見委員